

気仙沼支部だより

令和 4 年 12 月発行



支部長挨拶

気仙沼市立病院 水戸恵美子

長期化する新型コロナウイルスに対応するため、現場の最前線で頑張っている皆様には、心から感謝申し上げます。今年度の気仙沼支部の活動は「少しずつ平時に戻し、若年層への看護のアピールの機会を」という思いで始まりましたが、ふれあい看護体験は残念ながら、第 7 波の襲来で開催できませんでした。しかし、第 8 波感染拡大の中ではありましたが、11 月にゾーニングについての研修会と交流会を開催することができました。患者さん・利用者さん・職員の感染が相次ぎ手探りの中で、ゾーニングやマニュアル作成など苦労して行ってきた生の声を伺い、研修会でのゾーニングの学びは、これからも続く感染対策に活かせるものでありました。そして、何よりも皆さんと直接顔を合わせ、語り合うことで、多くの方々と顔見知りになり、連携強化につながる機会となりました。志を同じくする者同士が共通の悩みを抱えています。これまでも、これからも、走りながら、周りを見ながら、考えながら連携し難局を乗り越えていきましょう。

気仙沼支部研修会と地域ネットワーク交流会

令和 4 年 11 月 19 日、気仙沼市市民福祉センターやすらぎを会場に、気仙沼支部研修会・地域ネットワーク交流会を開催いたしました。

研修会では、気仙沼市立病院の感染管理認定看護師 小野寺富士子先生から、感染対策の 3 原則（病原体を）①持ち込まない②持ち出さない③拡げないが基本で、感染経路の遮断が感染拡大防止のためにも重要な対策となること、ゾーニングの目的や時間ゾーニングの活用、具体的に感染が拡大していった場合のゾーニングの仕方について、図や写真を組み込みながら分かりやすく教えていただきました。そして、最も重要なことが、ワンセルフゾーニング（自分自身）で 3 原則を振り返り、個人防護具の正しい装脱着と手指衛生の徹底、体調の自己管理と行動管理の重要性を学びました。地域ネットワーク交流会では『講演をきいて自部署の感染対策を考える』をテーマに、多施設スタッフとグループワークを行いました。自部署の成功例や悩み・葛藤を話すことで、環境や対象とする人は異なりますが、皆、手探りの状態で対策をしてきたことを知り共感したり、知識を共有することができた有意義な時間でした。



小野寺先生のお話は初めて耳にするワードもたくさんありました！



グループワークと会場の様子



これまでの役員会と支部活動

年月日	内容	場所・方法
R4.5.10	宮城県看護協会気仙沼支部総会	Zoom 併用
R4.6.24	第 1 回支部役員会	〃
R4.7.8	出前看護講座	本吉響高等学校
R4.8.26	第 2 回支部役員会	Zoom 併用
R4.10.7	第 3 回支部役員会	Zoom 併用
R4.11.19	気仙沼支部研修会 地域ネットワーク交流会	やすらぎ

Zoom 併用の支部総会の様子



編集後記

コロナ禍になり 3 年目。イベントも 1 回開催できれば良しとしていた昨年に比べ、出前看護講座を復活することができました。出前看護講座では、産婦人科医師の作成した DVD による、性に関する講話や看護師の職業紹介を行いました。また、支部研修会と地域ネットワーク交流会は、47 名の参加があり、タイムリーな内容だったと好評でした。感想のご協力をいただいた皆様へ感謝を申し上げます。

南三陸病院 阿部公栄さん



今回初めて「新型コロナウイルス感染症のゾーニング」の講習、グループワークに参加しました。私の勤めている南三陸病院では、先日まで新型コロナ陽性の患者さんが入院していましたが設備やスペースの問題からゾーニング、特にイエローゾーンのエリア分けが難しいという問題がありました。今回の講習を受け、様々な施設の対策、スタッフの考えについて意見交換をすることができたのは、とても有意義な機会でした。今後も、新型コロナの流行が続く状況にあるため今回のような講習の機会は、とても貴重で必要なものであると感じています。今後も看護協会の皆様には今回のような研修会の機会を設けていただければと思います。

医療法人社団湖聖会 小規模多機能ホーム南三陸 森久保 好文さん



時は「新型コロナ」の時代。今回私は、小規模多機能ホーム南三陸の看護師として、拙いものだが自施設の「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」を作成した。しかし一方、日々の感染状況を目にし耳にし、心中「本当にこれで大丈夫だろうか？」と不安・心配を抱えながらの毎日を過ごしていた。そうした中、研修に参加し、以下のような学びを得、それと共に大いに勇気を頂くことができた。①感染管理認定看護師の小野寺富士子先生の講義を通して、ゾーニングの知識を整理して頂き、特に「時間ゾーニング」という視点に多くの示唆を頂いた。②地域ネットワーク交流会では、日頃お世話になっている地域の医療機関の看護師の皆様と、自施設における具体的な感染対策についての意見交換・共有を行い、私が抱えている不安や戸惑いも、決して私一人ではないのだなということに気づき励まされた。国内での新型コロナウイルス感染症確認から早 3 年余りが経とうとしているが、私は膨大かつ日々更新される情報を前に「結局、何が正しいのか混乱し、判らなくなり“ため息”をつく」時もある。しかしながら今回の研修は、これからも感染対策の基本をまもりながら、第 8 波の中「今行っている自施設での感染対策をまずは継続・徹底することが大切」という方向性を示して頂く機会でもあったのではと省察している。

支部活動について

ふれあい看護体験やまちの保健室（南三陸健康まつり）も開催予定でしたが、コロナ禍のため中止になりました。看護師を増やすためには、若年層へ“看護の魅力のアピール”の場が益々必要になります。号外になりますが、気仙沼出身の医師や看護師の紹介をして、共に働いてくれる担い手へアピールをしたいと思います！



（石井会長と講師の小野寺先生を囲んで）